

令和5年度 第2回大阪府スポーツ推進審議会

- 日 時 令和6年2月7日(水) 14:00~15:45
- 場 所 大阪府庁別館6階 委員会議室
- 出席状況 出席委員 13名 欠席委員 2名
(事務局) 教育振興室長、保健体育課長、首席指導主事1名、総括主査2名、主任指導主事1名
文化スポーツ室スポーツ振興課長、課長補佐1名、総括主査1名
福祉部 自立支援課長、指導主事1名

1 開 会

- ・ 事務局が開会宣言

2 あいさつ

- ・ 大阪府教育庁を代表して教育振興室長があいさつ
- ・ 会長あいさつ

3 委員の人事について

- ・ 事務局から、所属団体における異動に伴い、新たに任命、委嘱したことを報告及び出席者の紹介
- ・ 事務局から、本日の会議が大阪府スポーツ推進審議会運営要領に規定する定足数を満たしていることを報告

4 大阪府スポーツ推進審議会条例第6条第1項により、会長を議長に選出

5 議 事

(1) 報告事項

【質疑応答等】 □・・・議長 △・・・委員 ◆・・・事務局

- ① 令和6年度体育関係団体に対する補助金について 別紙「資料1」

特になし

- ② 令和5年度保健体育課、スポーツ振興課、自立支援課関係、当初予算状況について 別紙「資料2」

□高校において「部活動指導員」及び、「外部指導者」とあるがこの違いは何か。

◆「部活動指導員」は部活動の指導を顧問の先生に代わって、単独で指導できる学校職員として任用される方。「外部指導者」は、顧問の先生と連携をして指導に当たり専門的な指導ができる方。

△市町村の部活動指導員に対する予算状況はいかがか。

◆市町村に対しての部活動指導員の配置に対する補助金については、(6)の地域クラブ活動体制整備等事業費の中に計上している。当該事業費は、休日の運動部活動の地域移行の事業実証事業(国の委託事業)と合わせた予算

となっており、実証事業に取り組む市町村が令和5年度は5市町村、令和6年度は12市町村に増えているため、増額となっている。

△府民スポーツ・レクリエーション等負担金が大きく減額されている理由は何か。

◆今年度に比べ200万円ほどの減額となっているが、来年度も事業は同規模で実施する予定。実績に応じて予算要求したもの。

△オリンピック・パラリンピアン派遣事業について。派遣実績はどれくらいか。

◆年18回程度。小学校や支援学校に派遣している。

△来年度はパリオリンピックがあるが、同程度の派遣ができるのか。

◆パラリンピアンについては現役の方にも行っていただいているが、基本的には過去にオリンピック・パラリンピックに出られた方をお願いしているので、同程度の派遣は可能と考えている。

△派遣することによる反応はどうか。

◆全ての学校にアンケートを取っており、9割以上の学校から高評価を得ている。応募も多く十倍以上の申し込みがあるところ。

(3) その他

① 学校運動部活動の在り方について 別紙「資料3」

□資料3-5について、部活動の地域移行が全国的に行われており、土日の地域移行が行われているということだが、将来像は土日も含めて平日も地域移行となるか。

◆令和5年度から7年度までの3年間は、国は改革推進期間として休日の部活動の段階的な移行を行っているところ。将来的には平日も移行していく予定としている。

□部活動となっているが、地域で行えば地域クラブという名前がつくということか。完全に学校から離れるのか。施設的には学校の施設も地域の施設も利用するのか。

◆その通り。

△資料3-3の説明の中で、箕面市も実施しているという説明があり、もうすでに中学校で28の活動を地域行したという風に見えるが、どういう形であれば指導をできるか、また、複数の中学校が一緒に実施した時にはどうしたらそれが継続できるかということや、今試行錯誤している状況。そこへスポーツデータバンク(株)が、コーディネートをして実施しているのが実状。まだまだ課題があり、先日、PTA、関係者など地域の人たちとグループミーティングをした時に、指導者の研修が必要だという意見が出た。それは技術的な研修という意味ではなく、中学生たちがどういうふうに進化しているのかということや、配慮の必要な子どもたちへの声かけ等、質の向上を求める研修であり、動画コンテンツだけではなく、対面の形でコーチングなども含めて研修していく必要があるという意見だった。

△資料3-7の大阪府スポーツ&カルチャーバンク(仮称)はいつごろから活用できるのか。

◆まだ検討段階で、具体的なスケジュールは立っていない。令和6年度予算要求で計上しているところ。
△枚方市でも地域移行に向けた意見聴取会をしている。いろいろ検討している中で、こういうものがあると非常にありがたい。他の市町村などとも情報共有していきたい。

△人材バンクについて、人だけの問題ではない。指導者の支援という形で前へ進んでいきがちなので、中学生たちがどんな放課後を過ごすのか、どんな休日を過ごすのかというふうな議論やご提案もいただけたらと思う。また、ボランティアで関わってくださっている方たちは、平日は働いて土日は地域でボランティア活動をしていて、その人たちの働き方改革はどうなっているのかというご意見も多々いただいている。土日は難しくても平日や夜だったらできるという人たちもいる。府民全員が何かの形で関わっていけるような状況を、ぜひ環境的に作っていただけたらと思う。

□全国で一斉にいろんな人が取り組んでおり、その都度課題が出てくるので、それを参考に取り組んでいっていただきたい。

② 「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果概要について 別紙「資料4」

□令和5年度の調査において課で把握していることは、

◆1週間の総運動時間で60分未満の子どもたちの割合が多くなってきており、特に女子において顕著。コロナ禍になり運動する機会がなくなったので、体力的に低下していることは全国的に言える。コロナが明けて回復の傾向を見せているが男子だけ。女子はまだ体力合計点が上がってきてないという状況。運動時間が60分未満の子どもたちにおいて、女子が多いというところが原因なのではないか。

△コロナの影響というのはよくわかるが、コロナ前の平成30年以前の5年間は上がっていたのか、明らかにコロナの影響で下がっているのか、データがあれば、

◆コロナ前は徐々に上がってきていた。コロナで大幅に下がった。ただ、長座体前屈は上がっている。

③ 子どもの体力向上事業について 別紙「資料5」

□資料5-5「体育の授業は楽しいですか。」の説明の中で、この数値をキープしてという説明があったが、この数値とは全国の数値か、大阪府の数値か。

◆大阪府の数値。3年生の「好き」の割合が4年生になった時に下がらないようにするような取り組みが必要だと思っている。

④ 大阪府の障がい者スポーツについて 別紙「資料6」

△東京オリンピック・パラリンピックの時から、障がい者のスポーツに関心が高まってきているところであるが、障がい者のスポーツと、そうでない人のスポーツとが違うところですと続けられてきたということ、すごく感じている。いろいろな形で事業を実施していると思うが、今後はぜひ一緒に何かができるもの、皆さんに見ていただくということだけではなく、参加するなどもあればよいと思う。例えば元気アッププロジェクトの中で、ダンスイベントをイオンモールにおいて実施しているが、そこへ障がい者の方たちのダンスパフォーマンスをされる方たちが参加はしているか。

◆参加していない。

△いい事業をそれぞれ実施されているので、融合できるものというのを今後ぜひお願いしたいと思っている。

⑤ 令和6年度保健体育課、スポーツ振興課、自立支援課関係、行事予定について 別紙「資料7」

特になし

⑥ 大阪府スポーツ推進計画部会の設置及び今後の予定について 別紙「資料8」

特になし

6 その他（全体を通して）

△資料3-7・8の部活動人材バンクについて。人材バンクを設置して速やかにマッチングっていうのは非常にいいと思う。今後、登録された方々は選考の上、学校の職員として採用されるということだが、人材バンクの登録者が性犯罪歴チェック等の対象になり、犯罪歴のある人たちが関与しないような仕組みとなっているのか。

◆現在も部活動指導員を学校に採用する際に面接を行い、採用資格調査をしてフィルターをかけているものの、それ以外の厳密なフィルターはかけられていない状況。その仕組みの構築等にあたって、そういった人物が指導に関わらないようにするための方策を検討していく必要がある。

△そのチェックは、大阪府としても何らかの対策を取っていくことが必要だと思う。あともう1点。先ほども部活動指導員の資質向上に向けた研修の話があったが、採用条件のところで各種、資格団体等と連携し、指導等に関する一定の資格等を取得していることが担保されている方々を何とか巻き込めるようにしていくべき。競技指導者や保健体育科の教員免許保持者等、そういった方を採用し研修を行うことで、一定の質の担保というところを考えていただきたいと思う。

7 閉会

- ・ 事務局が閉会宣言を行う